

健康のひろば

—34—

地元の医師がアドバイス

一カ月前から排尿のとき尿に血の色が混じっています。別に痛くも何ともないのですが、血が混じった尿が出たり、消えたり繰り返しています。心配です。(美深・農業・六十七歳)

固まりを伴う場合があります。その中で、痛い、尿が近い、といった随伴症状を伴わない状態を無症候性肉眼的血尿といいます。

成人の無症候性肉眼的血尿を起こす病気として、50歳以上で最も多いのは膀胱癌です。特に60歳以上に多く、病気にかかる割合は男性の方が女性の約4倍高いといわれています。

また、尿の通り道である腎盂と尿管にも膀胱と同じ尿路の粘膜組織があり、そこから癌が発生します。腎盂尿管癌の場合、60%の患者で

血尿は尿に血液中の赤血球が混入した状態で、肉眼で赤く見える状態を肉眼的血尿といいます。血尿の濃さの程度は様々で、一部血液の

部痛を伴う場合はありますが、割合としては少なく、血尿は出たり出なかったりする間歇的血尿の場合が多いとされています。膀胱癌になりやすい要因として、喫煙の習慣や化学物質へさらされる職業などが挙げられます。

また、尿の通り道である腎盂と尿管にも膀胱と同じ尿路の粘膜組織があり、そこから癌が発生します。腎盂尿管癌の場合、60%の患者で

肉眼的血尿を認め、尿路閉塞に伴う側腹部痛を伴うのは20〜30%のみで大部分は痛みを伴いません。

他の尿路悪性腫瘍では腎癌があります。現在は健診などで偶然発見されることが多いのですが、以前は側腹部痛・血尿・腹部腫瘍が3大症状といわれ、今でも無症候性肉眼的血尿で発見される場合があります。また、前立腺癌でも血尿をきっかけに発見される場合があります。

悪性腫瘍以外で

も、前立腺肥大症、尿路結石、出血性膀胱炎、腎炎、血管性病変など様々な病気で、無症候性肉眼的血尿が出現します。原因がつかめない特発性腎出血もあります。

無症候性肉眼的血尿が出現した方は、つらくないからといってそのままにしないで、泌尿器科に相談されることをおすすめします。



(名寄市立総合病院 泌尿器科・山下孝典)

排尿の時に血が混じる